

THE A MUSEUM

Vol.9-1 第25号 2014.6.26

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



栗橋宿と利根川の渡船場に設けられた関所
〔重要文化財「日光道中間延絵図」(東京国立博物館蔵、部分、Image:TNM Image Archives)〕

文化の継承

昨今、グローバル化、グローバル人材の育成などといった言葉が盛んに使われています。しかし、その言葉の裏にあるものは、我が国文化の理解と経験にほかなりません。Meme (ミーム) という言葉があります。「模倣する」という意味のギリシャ語 (miMeme) に「記憶する (memory)」を組み合わせた造語で「意伝子」と表現されます。私たちには、過去からの記憶が「遺伝子」により伝達されています。そしてまた、文化も「意伝子」により私たちが継承していくべきものでしょう。

(館長 牧 恒男)



平安時代貴族の装束を着た牧館長



今回の特別展は、全国街道資料ネットワークの協力を得て、郵政博物館・物流博物館・草津市立草津宿街道交流館・埼玉県立浦和図書館・埼玉県立文書館とともに、“につぼん歴史街道”を共通テーマとして共催する展覧会です。

東京国立博物館蔵の重要文化財の街道絵図と、郵政博物館蔵の絵図を同時公開することにより、江戸幕府が作成した街道絵図の全容を見ることが出来ます。あわせて、関所、将軍の日光社参の際に利根川に架けられた船橋に関する資料も展示します。

■第1部 ぶんげんのべえず 分間延絵図の世界

江戸幕府は、幕府が管轄する街道の現状を把握するため、街道絵図の作成に着手し、文化3(1806)年頃に完成しました。1部は将軍に献上され、残り2部は実務に供するため道中奉行所に置かれました。

現在、「^{ごかいどうぶんげんのべえず}五街道分間延絵図」と通称されていますが、正式名称は「^{ごかいどうそのほかぶんげんえ ずならびにみとりえ ず}五海道其外分間絵図並見取絵図」です。この絵図は、東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中の五街道とその脇街道などを描いたもので、街道沿いの家並や橋、一里塚、宿場、陣屋、関所などはもちろん、沿道の寺社などの様子も詳細に描き込まれています。このため、江戸時代後半の街道や宿場の様子が手に取るようになります。将軍に献上された絵図は、現在、東京国立博物館に所蔵され、内容は出版物を通して広く知られています。一方、道中奉行所で使われていた絵図は、郵政博物館が所蔵していますが、これまでに出版物にも掲載されたことがなく、あまり知られていない存在でした。両者を比較すると山や林の描写などに微妙な違いがあります。今回の展覧会で、両者を見比べることが出来ます。



大宮宿の家並(右下方)と氷川神社(左上方) [中山道分間延絵図控 壹 (郵政博物館蔵、部分)]

また、郵政博物館が所蔵する絵図には、東京国立博物館には収蔵されていない、「日光御山内見取絵図控」、東海道の脇街道（通称姫街道）であった「本坂道分間延絵図」、「箱根湯治場道見取絵図控」、「信州松本通見取絵図控」、「見取開絵図」があります。これらの絵図は、今回初めて公開されるものです。

埼玉地域には、中山道、日光道中、日光御成道、日光御廻道などが通っていました。これらの街道については、溪斎英泉・歌川広重による「木曾街道六十九次」や広重が描いた「日光道中」などの浮世絵も展示します。また、街道図屏風（三井記念美術館蔵）や菱川師宣の「東海道分間図」（郵政博物館蔵）なども紹介します。

■第2部 将軍の日光社参と船橋

江戸時代は、江戸防衛の観点から、一度に多人数が通行できないように、大きな河川には恒常的な橋を架けませんでした。このため日常的には、浅瀬は徒歩で、そのほかの場所は船で往来していました。

将軍は、幕府開祖の徳川家康の霊を祀る日光東照宮を訪れています。将軍が日光に参詣する際には、日光道中が利根川を渡河する栗橋（久喜市）と中田（茨城県古河市）の間に臨時の船橋が築されました。

今回の展覧会では、天保14（1843）年に12代将軍家慶が参詣した際の、船橋の景観図や構造図のほか、実際に船橋を係留していた虎綱も展示します。



利根川に架けられた船橋の景観 [中田宿栗橋宿間船橋絵図 (当館蔵)]

■第3部 江戸時代の関所

幕府は江戸を防衛する目的で、箱根など53か所に関所を設置し、県域には、川俣（羽生市）、栗橋（久喜市）、関宿（春日部市）に関所を設けました。



川俣関所関係用具のうち鎖帷子・陣笠・脇差
(羽生市個人蔵・当館寄託)

関所の役割は、入り鉄砲と出女の取り締まりを行うことでした。入り鉄砲とは、武器である鉄砲が江戸に流入することです。出女とは、人質として江戸に住まわせていた大名の妻子が無断で江戸を出て国元に逃亡することです。どちらも幕府に対する大名の反乱を防止するため、幕府の厳しい監視のもとにおかれました。

今回の展覧会では、分間延絵図に描かれた関所の景観、武器や男性をふくめた人々が関所を通行する際の手形や、関所破りの者を捕える三ッ道具（刺股・袖搦・突棒）、関所役人の防具などを展示します。

このほかにも、駕籠や乗物などの実物資料も展示します。また、合羽や振り分け荷物など当時の旅支度なども紹介します。この機会に、江戸時代にタイムトリップして、街道の旅をお楽しみください。

(展示担当 加藤光男)

当館編『わくわく埼玉県歴史ロマンの旅』の刊行

6月10日、当館編の歴史文庫が学陽書房から刊行されました。書名は『わくわく埼玉県歴史ロマンの旅』というもので、埼玉県内の史跡や名所などを通して、歴史について関心を持ってもらおうとする本です。

埼玉県民は、全国的にみて「歴史好き」が多いといわれています。それは、本県の県民年齢が若い世代が多く、県外からの転入者も多くなっており、住む地域の歴史や文化に興味関心を持つためといわれます。近頃では、書店の店頭には「埼玉本」とよばれるいわゆる「ウンチク本」が数多く並ぶコーナーも目にするが増えてきました。また「歴女」に代表される若い世代の歴史マニアも増加していることも一因ではないでしょうか。いずれにしても埼玉県の歴史に関心を持っていただけることは、博物館に勤める私たちにとって大変喜ばしいことであります。

さて、本書の趣旨は、埼玉県内に所在する史跡や名所を中心に、それにまつわる歴史やドラマの叙述にあります。そして埼玉県の魅力を再発見して「歴史」や「埼玉県」が好きになり、その場所に行ってみたくなる本をつくりたいという企画でした。学陽書房編集部が行った全国書店へのサーチでも、歴史関係の書籍の販売数では、埼玉県はトップクラスということで、今回の企画でまず埼玉県が選ばれたということです。

ちなみに学陽書房は、御存知の方も多いと思いますが、教育や法律関係の出版社で、非常にお堅いイメージの会社ですが、戦国武将や幕末の志士などを扱った「人物文庫」を発刊しているという一面もあります。今回は、新しい試みの第1段として、この企画が発案されたそうです。

閑話休題。そこで学陽書房は、『わくわく埼玉県歴史ロマンの旅』出版にあたって、埼玉県の執筆を誰(どこ)に依頼するかと社内で検討をしました。歴史情報センター機能を持っているのは博物館、そこにいる学芸員はその専門家であるということで、埼玉県内の歴史や文化財を総括している博物館がいいということで、当歴史と民俗の博物館に白羽の矢が立ったということです。

依頼を受けて当館としても趣旨や内容を検討

し、史跡や名所の歴史を語るだけよりも、そこに関連した人物を絡めることで、より歴史を身近なものとして親しんで読んでもらえるのではないかという提案を行い、当館と出版社との協議の結果、有志の執筆により本書が出来上がったのです。

内容は、原始から現代までの史跡や名所60箇所を文章とカラー写真で紹介しています。さらにコラムとして、祭、食文化、特産物、鉄道、スポーツ(サッカー)を取り上げ、盛りだくさんの読み応えのある本になっていると自負しております。

限られた紙数でもあり60項目では、埼玉県の良さを十分にお伝えできません。まだまだ魅力いっぱいので、皆さんの声が続刊への後押しとなります。是非とも皆様に『わくわく埼玉県歴史ロマンの旅』を御一読いただき、埼玉県における重要な役割を果たした史跡などの歴史の舞台やそれを彩った人物を通して、埼玉県の歴史に関心を持ち、その場所に足を運んでいただくとともに、御感想や御意見を頂戴できれば幸いです。

(副館長 杉山正司)



※購入は、当館ミュージアム・ショップ及び埼玉県内の書店・コンビニで。

総ページ：240頁。価格：760円(税別)

問合せ先：学陽書房営業部 ☎ 03 (3261) 1111

1年半の派遣を終えて～東日本大震災の復興支援

私は平成24年10月から平成26年3月まで、1年半、復興支援で宮城県へ派遣されていました。発掘した遺跡は、試掘を含めて8遺跡です。右の写真は、そのうちのひとつで、多賀城で有名な山王遺跡さんのうの平成25年1月の様子です。降りしきる雪の中、誰もが黙々と作業をしていました。現場の安全管理上ではあまり感心したことはありませんが、そうばかりもいつてられません。三陸自動車道の複線化が急がれているのです。これまで宮城県では、12月から2月までの厳冬期には発掘調査を実施していませんでした。つまり、冬期の発掘に対するノウハウを案外もっていないのです。

1年半のうち半分の8ヶ月は、気仙沼市で発掘調査をしていました。気仙沼市も甚大な被害があった地域です。平成25年7月から赴任したのですが、その頃はまだ「第18共徳丸」が巨体を横たえて震災の猛威を生々しく伝えていました。

気仙沼市での主な仕事は、防災集団移転に伴う埋蔵文化財の発掘調査です。工事の工期が遅れるとマスコミ等の報道で発掘調査が原因のようにされることがありますが、これは必ずしも正しくありません。発掘調査はほとんどの場合スケジュール通り進んでいます。ただ一見納得しやすい理由であることも確かなのです。なぜなら埋蔵文化財を発掘調査し記録にとどめることが本当に必要なのかという本質的な問題を抱えているからです。



猿喰東館跡・気仙沼湾・大島



山王遺跡

限られた紙面では順序立てて書くことはできないのですが、結論的には必要なのです。それでは、なぜ必要なのでしょう。また、必要としているのはいったい誰なのでしょう。端的に言ってしまえば、必要としているのは我々の子孫たちです。知的財産である文化財を後世に伝えていくのは私たちの使命です。

しかし、一方で忘れてはならないのは、社会的条件がそれを許す範囲で、という制約があることです。震災復興の非常時には、非常時に合わせたやり方が必要とされます。そしてそれは確実に実行されているといえます。厳冬期に発掘調査をするということもその一つと言えるでしょう。

言うは易しですが、実際の運用となると難しいのもまた事実です。本調査が必要か調べる意味での試掘調査もやりました。その結果、そこに遺跡がないということになれば、復興事業にとっても遺跡にとっても、実はとてもいいことなのです。そういう意味では、派遣されたことによって埋蔵文化財を含めた文化財そのものについて、より深く考える良い機会になりました。

左の写真は、気仙沼市の猿喰東館跡さるはみひがしたてあとの航空写真です。手前の木々に囲まれた部分が中世の館跡でした。眼前に気仙沼湾が広がり、湾内に浮かぶ大島が見えます。普段は穏やかな海なのです。

(学習支援担当 伴瀬宗一)

現代社会では、「写」(うつし)という「オリジナルそっくりにかたどる」「コピー」などが連想されるのではないのでしょうか。こと芸術や学問の分野では「コピー」(模写・模倣)と聞くと、鑑賞者にネガティブな印象を与えます。しかしながら、これから紹介する前近代の「写」の文化は、一言では語り尽くせない豊饒な世界を見せてくれます。本コラムでは、その豊饒な世界の一端を紹介します。

まず、「写」の語を『大漢和辞典』で調べてみると、単に「コピー」だけを意味していないことがすぐ分かります。「うつす」ことが第一に記載されますが、その他に「ならう」「まなぶ」「かきうつす」「えがく」などの意味が書かれます。「そそぐ(注ぐ)」や「はこぶ」の意味もあるようです。日頃使用している「写」の語からはかけ離れた意味もあり、意外にすら感じます。江戸時代では、画技習得の方法として、手本をそっくりに写す方法が広く行われていました。まさに「写す」≡「学ぶ」ことだったのです。

「写」の語を使った美術用語というと「写生」「写実」などが挙げられるでしょうか。「写生」というと現代では、対象(モデル)を眼前にして描く「スケッチ」を意味するでしょう。しかしながら、「写生」の語が用いられた中国・北宋時代の画論を見ると、①対象をいきいきと生氣あるように描く意味や、②形態などを客観的に描く意味、③細密描写の意味、④実物の観察から描く意味、また⑤単に動植物を描いた花鳥画の意味、の5つに分類できるようです。④は現代の「写生」の用法に近いものですが、実に多様な意味を「写生」が持っていたことがわかります。⑤の意味からは、「写生」の語は人物画や山水画に対して用いられな

かっただろうことがわかります。

上記の通り、かつて「写」や「写生」の語は、実に重層的で多様な意味を持っており、江戸時代のわが国においても、それはほぼ同様だったと考えられます。多様な意味を持っていた「写」の語は、時代を経るにしたがい(特に西洋文化が本格的に流入した明治維新を経て)、現代の使い方に収斂、限定されていったとみることができるでしょう。

では、幅広い意味もっていた「写」の状況を鑑みつつ、作例を紹介してみましょう。ここで取り上げたいのは、関東南画を代表する絵師谷文晁たにぶんちやうの落款らつかん(サイン)のある「鯉図」(当館蔵)です。江戸時代後期に活躍し、多くの門人をかかえた谷文晁は古今東西の絵画から柔軟に図様・描法を学んだ人物で知られています。本図が、彼自身の手による作例か、即座に結論を下すことは避けたいと思いますが、落款には墨書「文晁」と画号「画学斎」の朱印が確認できます。



本図は、激しい水しぶきとともに、鯉を側面からとらえています。「鯉の滝登り」でも知られる通り、立身出世の意味をもった「登竜門」を画題にしており、古代中国から連綿と続く題材です。本図の特徴は、その過剰なまでに回転し、屈曲した白波でしょう。波の墨線は、その濃淡や太さに変化をつけ、実に装飾的です。

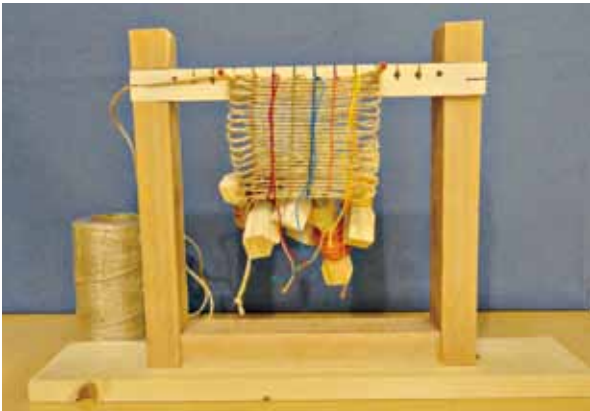
このようなエキセントリックな波の表現は、中国・元時代の絵画に、近い表現をみつけることができます。谷文晁は、多くの中国画を模写し、学び、自らの作品として世に出しました。本図もまた、谷文晁周辺で描かれ、中国画を下敷きにした絵画なのでしょう。

(企画担当 浦木賢治)

「鯉図」(当館蔵)

新メニュー「編布コースター」

ゆめ・体験ひろばの「ものづくり工房体験メニュー」に、平成26年4月1日から「編布コースター」が加わりました。「編布コースター」は小学校低学年のお子さんでも、一時間ほどで仕上がります。メニューを通して縄文人の知恵や技術を体感してみたいはいかがでしょうか。



製作過程



日本最古の布といわれている編布は、カラムシやアカソなど、身近にある植物を原料にしています。そして絡み編みという、簀の子や俵等と同じ技術で作られた編み物製品のことを指しています。

江戸時代後期の鈴木

ぼくし あきやま きこう 牧之の『秋山記行』や金沢千秋の こしのやまつと 『越能山都登』などの記述から、「網ぎぬ」あるいは「あみ衣」と呼ばれる布が存在していたことは知られていましたが、明治時代後半には現存しない「幻のあみ衣」とされていました。

しかし、昭和28年に こばやし ながろう 小林存が新潟県の あきやまこう 秋山郷で編み組織による袋を発見しました。これは後に「アンギン袋」と呼ばれる資料です。さらに昭和35年、同地の松沢伝二郎（当時92歳）が編み組織の製作技術を伝承していることが明らかになりました。翁が編み組織製品を「アンギン」と呼んでいたことや、この地方に伝承されていたことを踏まえ「越後アンギン」と呼ばれるようになりました。

このアンギンという言葉は「編み衣」（アミギヌ）が転じたものであるという説があります。『中里村史』によると、音韻の変化について「ミ」が「ン」に転じる例として、カンブクロ（紙袋）・カマガンサマ（釜神様）・ノンバキ（蚤掃き）・カンナリサマ（雷様）・シンモチ（凍み餅）・オンキ（お神酒）・アンダサマ（阿弥陀様）があります。

また、「ヌ」が「ン」に変わる例では少数ながらキン（絹）・イン（犬）・ヤマイン（山犬）があげられています。

また「編布」という名称は、みやぎけん さんのうがこい 宮城県山王 いせき 圀遺跡から絡み編みの布を発掘した伊藤信雄が、越後アンギンやその道具を見て、その道具で山王圀遺跡出土品と同じ布を編めることがわかり、出土した絡み編みの布を『編布』と命名されたそうです。

縄文時代の編布は、衣服のためだけに作製されたわけではありません。たとえば縄文土器は一定の場所に置かれ、型を整え、文様を施していきます。その際に、柔らかい粘土の土器の底面は置かれた場所にくっついてしまいます。そのため、台に木の葉や、網代・編布を敷いて付着を防いだといわれています。さらに、敷物があるため、土器を回しながら作ることが可能になるという利点もありました。

（学習支援担当 東可南子）



使用例

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報(7月～9月)



埼玉県のマスコット
コマン

■特別展「につぼん歴史街道 江戸の街道～絵図でたどる宿場と関所」を、7月19日(土)～8月31日(日)まで開催します。

7月

- 5日(土) 博物館裏方探検隊
- 12日(土) 博物館裏方探検隊
- 19日(土) 特別展「江戸の街道～絵図でたどる宿場と関所」オープン
歴史民俗講座「絵図が語る江戸の街道」、
博物館裏方探検隊
- 20日(日) 特別展展示解説
- 26日(土) 博物館裏方探検隊、特別展展示解説
- 27日(日) 特別展記念講演会
「近世・近代の街道絵図について」

8月

- 2日(土) 博物館裏方探検隊、特別展展示解説
- 3日(日) ジュニア博物館講座
- 9日(土) 博物館裏方探検隊、特別展展示解説
- 10日(日) 特別展トークセッション
- 16日(土) 博物館裏方探検隊

8月

- 23日(土) 博物館裏方探検隊
- 24日(日) 特別展展示解説、映画上映会
- 30日(土) 博物館裏方探検隊、特別展展示解説
- 31日(日) 特別展展示解説

9月

- 6日(土) 博物館裏方探検隊
- 13日(土) 博物館裏方探検隊
- 20日(土) 歴史民俗講座「武蔵国の伊勢参宮」
博物館裏方探検隊
- 27日(土) 博物館裏方探検隊

◆博物館への資料寄贈をお考えの方へ◆

まずお電話で御一報ください。
TEL:048-645-8171 (資料調査・活用担当)
詳しくはホームページを御覧ください。
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/?page_id=261

イベントは事情により変更になる場合があります。
また、事前に申込みが必要なものもありますので、
詳細はお問い合わせください。

◆お知らせ◆

65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。
御理解のほどよろしくお願ひします。

展覧会告知

特別展

よみがえ

甦る鉄剣

平成26年
10月11日(土)～
11月24日(月/振休)



交通機関
東武アーバンパークライン(野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore (編集発行)
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.9-1 (通巻)第25号
2014年6月26日発行